

Luncheon Linguistics, 6 November, 2019

2019（令和元）年11月6日

「複合動詞における日本語とベトナム語の対応」

発表者：ファム・ティ・タイン・タオ（東京外国語大学大学院博士後期課程）

日本語複合動詞には習得しやすいものと習得しにくいものがあることが見えた。ベトナム人日本語学習者にとっては、「立ち上がる」、「呼び込む」、「飛び出す」などの「上方移動」「内部移動」「外部移動」というような基本的な意味を表す複合動詞は習得しやすいが、「焼き上がる」、「走り込む」、「動き出す」などの「完了・完成」、「反復」、「開始」といった基本的な意味から抽象化・文法化された意味を表すアスペクト複合動詞は非常に習得し難い。その現象から、両言語の複合動詞に共通点と相違点があると判断できる。そのため、本研究では日本語とベトナム語の複合動詞の意味用法を比較することで、それぞれの言語における複合動詞のメカニズムと、その異同を探究する。具体的には、日本語「～出す」と、ベトナム語で「出す」に相当する「-ra」を意味・用法上で考察し、具象概念から抽象概念までどのような共通点・相違点があるのかを明らかにした。